



3月は『菜の花』

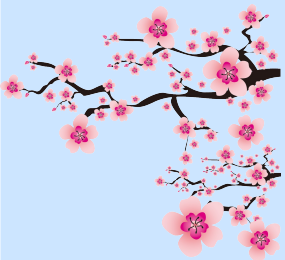
You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

Vol.46 2023.03.10 えんじよい工房・『YAH!』編集室

それぞれの理由 断然欠席!

なんと言われようが、私は欠席したい…こともある。ところがその裏事情が取りざたされるとなると、憶測と場合によってはあらぬ(?)疑いを抱かれてしまいかねない。相手によって、メンバーによって使い分けられたと思われるはなおさら厄介である。なんとなく後ろめたいことがある、「来い」と言われるととにかく行きたくなくなる、もちろん他に優先すべき用事があるということもあるだろう、顔を合わせたくない、あるいは見たくないこと理由は様々、天邪鬼はかわいいものだが、逃げ隠れはいただけない。そうはいっても正直逃げたいこともある、そつとしておいてほしい場合もままあるのだ。

或る政治家(といってよろしいのか?)のまさに出処進退がドキュメントで紹介されるのを見て(それこそが狙いか…)、結論を見いだせないままに“呟いて”みた。



【こんな歌を聴いてきた】

心が痛い

作詞・作曲・歌：リリイ

『私は泣いています』も良いが、断じてこちらをとりたい。こうまで直接的に言葉を突き付けられてしまうと、もう反論の余地はない。これほどの“正直”な心持を歌ったものを知らない。

めざらしく街は 星でうずもれた
透みきるはずの 体のなかには
氷のように 冷たい言葉で
結ばれた糸が ちぎれてしまおう
心が痛い 心ははりさけそうだが
なにも いわないで
さよならは ほしくないよ
ふたりの間に ひびわれたガラス
小さくふるえる うしろ姿も
終りがきたのを 知らせるように
だんだん涙に 消えていった
心が痛い 心ははりさけそうだが
なにも いわないで
さよならは ほしくないよ
心が痛い 心ははりさけそうだが
心が痛い 心ははりさけそうだが

リリイには俳優としてのイメージもあって、専門ではない淡々とした演技ぶりで嫌味なく、また観ていてつらくなるような拙さも感じられず、とにかく自然で軋轢なく受け入れられ身に沁みる存在感であった。これは近年特に印象に残ったもので、ドラマ『深夜食堂』(小林薫主演)でのゲスト出演だったが、晩年の“煌めき”だったし、存在感と共に素敵な女性だった。

【今月の花 三月・弥生】

菜の花

線路端の土筆が頭を出して、菜の花が咲いて春である。妖しさを滲ませ、満開の桜はすでに晩春というべきだろう。世は相変わらずの騒然ぶりでも、陽射しは日に日にパワーを増して冬は終わった。

【こんな映画を観てきた】

『007/ダイヤモンドは永遠に』 -1971/英・米 監督:ガイ・ハミルトン

密輸されたダイヤモンドを使って、レーザー光線を放射するという人工衛星が打ち上げられ、地球上のあらゆる場所が危機にさらされる…現代では、あながち荒唐無稽とも言えないが、とにかくファンタジーではある。テーマは壮大だが、作品としてはいたって“小品”、とっていいだろう。舞台はあくまでも地上のしかもかなり狭いくらいの空間で、宇宙とは対極の身近な広さであった。

さてメインステージはラスヴェガスのカジノ、本来、内部は撮影が禁止されているので、映画でのカジノのシーンは全てセット。ここでは、そのカジノがパーフェクトに再現されていた。そこでポンド氏はダイスだったが平然と勝ってしまうのだが、高額のチップが無造作にやり取りされるカットはまさにカジノの雰囲気満点!勝負がつけば、お次は美しい女性登場というのがお決まりのコースで、今回はほんのちょっとだったが、ナタリー・ウッドの妹、ラナ・ウッドがお相手をつとめた。